

(議事要旨) 社会資本総合整備計画①

『国土強靱化地域計画に基づく災害に強い道づくり (防災・安全)』の事後評価

●委員

P2 災害に強いまちづくりの成果目標がアクセス時間短縮としているのはなぜか。時間短縮も非常に重要な話だが、それ以外の道路の役割もあると思う。

○道路整備課

目標設定時に国からわかりやすい指標を求められている。様々評価指標はあると思うが、計画策定時に協議の下、今回の目標が設定されている。

●委員

P4 定量的な評価指標の算定方法について、道路は上下があるわけで、その上下のアクセス時間短縮時間を考慮されているのか。また、合計値か、平均値か。

○道路整備課

道路としては南北東西方向にネットワークがあり、設定した拠点から拠点へ向かって旅行速度の平均値を採用して算出している。算出値は平均値ではなく合計値である。

●委員

P6 バイパス整備の事例として2つ挙げられたが、近接しており、例えば洪水などで流された場合、両方使えなくなる可能性があるのではないかと。ある程度離れていれば、災害時も利用できるはず。

○道路整備課

バイパス事業として近接しているが、例えば旧橋に対して、バイパス道路にかかる新橋は最新の基準に基づいて設置しており、安全性は格段に向上している。災害時への対応として県道全体のネットワークを強化させていく。

●委員

P18 主要な事業に関する項目の事後評価について、県内人口、県内自動車保有台数、県内世帯数は県内の数値だが、道路は通過交通があるのではないかと。県外からの流入はあまり考慮されていないのか。

○道路整備課

数値としては確かに県内の数値であり、県外からの通過交通等は考慮されていない。

●委員

P20 交通量の変化について、交通が転換したとあるが、減少と増加のバランスがほぼ同じとの認識で良いか。具体的な台数が分かると、減ったのか増えたのか分かる。

○各橋での断面交通量の転換を表しており、概ね元々通行していた車の減少分を新しくできた橋が受け持っていると考えている。

●委員

39 事業のうち 23 事業が今回の 5 年計画の目標だという理解でいいか。残りの 16 事業は継続するのか。

○道路整備課

はい。当初は 23 事業完了を目標としていたが、配分される予算に限りがある中で、全ては完了できなかった。18 事業は完了し、残りの事業は、今回の計画で完了に至らない事業を含めて次の計画に引き継ぎ事業を推進していく。

●委員

評価について、未整備区間も含む形で評価されているのか。本来であれば事業が完了した後に評価すべきでないか。また、28%達成という評価はそれぞれの事業で 28%をクリアしたのか、そうではないのか。合計値での評価で妥当なのか。

○道路整備課

本来なら一つ一つの事業を個別に評価すべきだが、全体を評価するシンプルな指標の設定が必要であり、個別事業の評価ではなく、整備計画全体を評価する指標としている。よって、すべての事業で目標を達成しているわけではなく、トータルとして目標を達成している。

●委員

今回の事業評価とは直接関係しないが、前回の道路保全課での事業評価の今後の方針について、委員からの意見を取り入れて踏み込んだ方針にいただけていることに感謝する。